アンケート

今回の参加者は、

602 名　※登壇者、招待、報道関係、幹事、事務局含む。

515 名　※登壇者、招待、報道関係、幹事、事務局を除く。

内、一般参加 425 名（昨年は 330 名）

内、学割参加 12 名

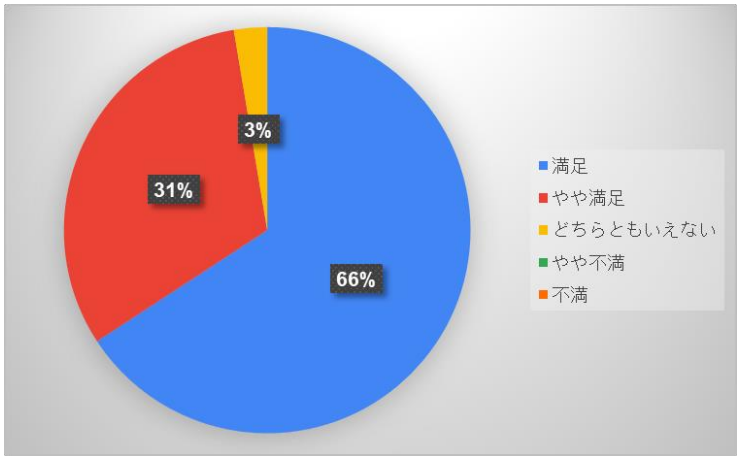
内、プレセッションのみ（無料参加）78 名

アンケート回答数は、114 でした。

アンケート回答者の内、一般参加 98、プレセッションの参加 14、登壇者・設立発起人 2 でした。

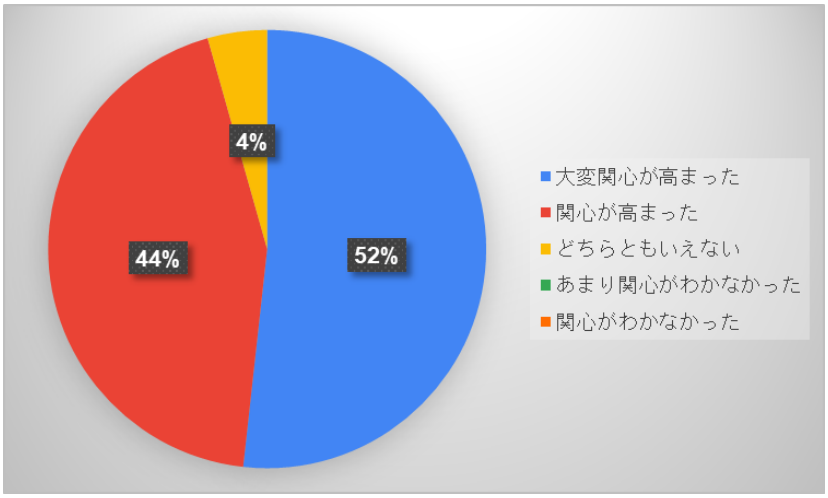
1．フォーラムの全体的な満足度：回答数 114 名

フォーラムの全体的な満足度について、「満足」が66%（75名）、「やや満足」が31%（36名）、「どちらともいえない」が3%（3名）、「やや不満」が0%、「不満」が0%でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、97%（111名）でした。



2．フォーラムを通じた関心度の高まり：回答数 114 名

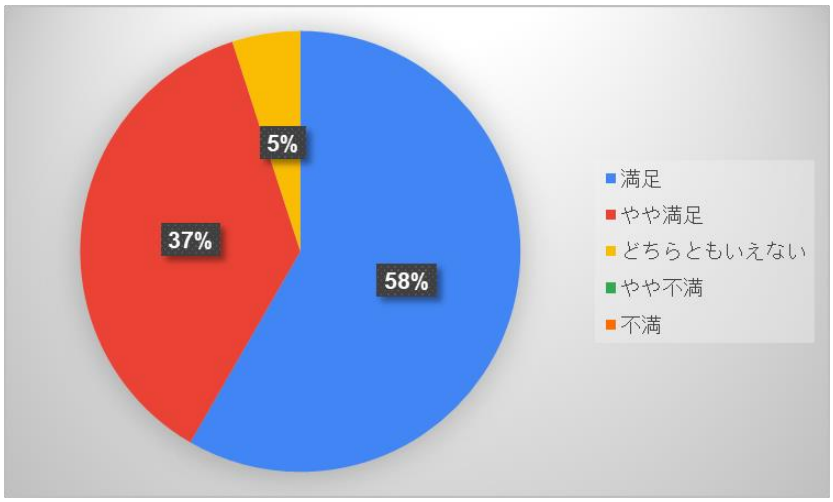
フォーラムを通じた子どもの社会的養護に関する横断的な相互交流や相互研鑽への関心が高まりについて、「大変関心が高まった」が52%（59名）、「関心が高まった」が44%（50名）、「どちらともいえない」が4%（5名）、「あまり関心がわかなかった」が0%、「関心がわかなかった」が0%でした。「大変関心が高まった」と「関心が高まった」を合わせると、96%（109名）でした。



3．各プログラムの満足度

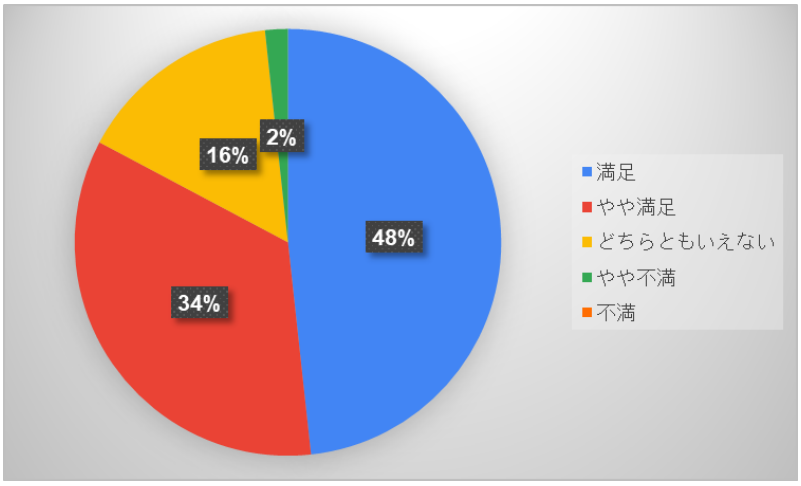
プレセッション①「 乳幼児緊急里親－実際の運用と課題－」：回答数 60 名

「満足」が58%（35名）、「やや満足」が37%（22名）、「どちらともいえない」が5%（3名）、「やや不満」が0%、「不満」が0%でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、95%（57名）でした。



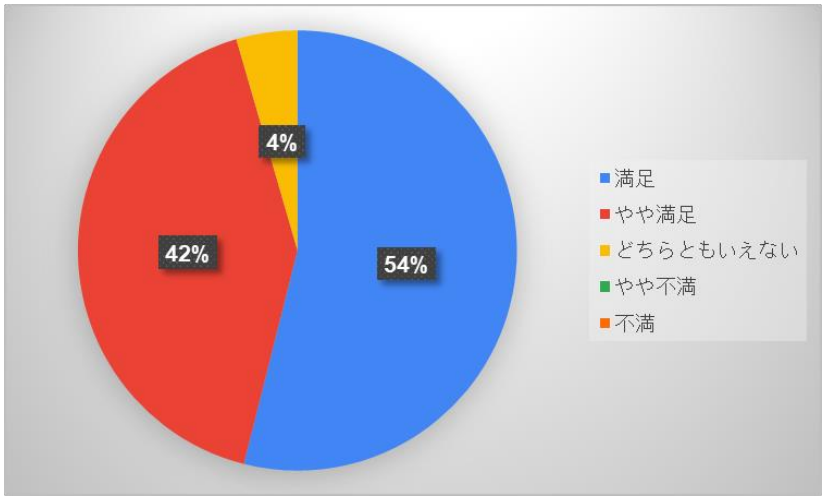
プレセッション②「 特別養子縁組と養育里親の育児休業－課題と展望－ 」：回答数 58 名

「満足」が48%（28名）、「やや満足」が34%（20名）、「どちらともいえない」が16%（9名）、「やや不満」が2%（1名）、「不満」が0%でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、82%でした。



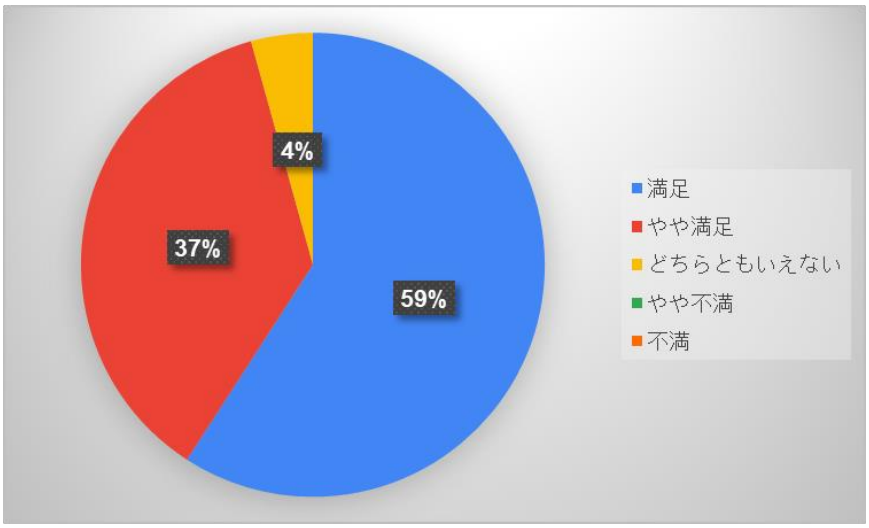
特別講演＆鼎談「こども家庭庁の発足と社会的養育の展望」：回答数 89 名

「満足」が54%（48名）、「やや満足」が42%（37名）、「どちらともいえない」が4%（4名）、「やや不満」が0%、「不満」が0%でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、97%（85名）でした。



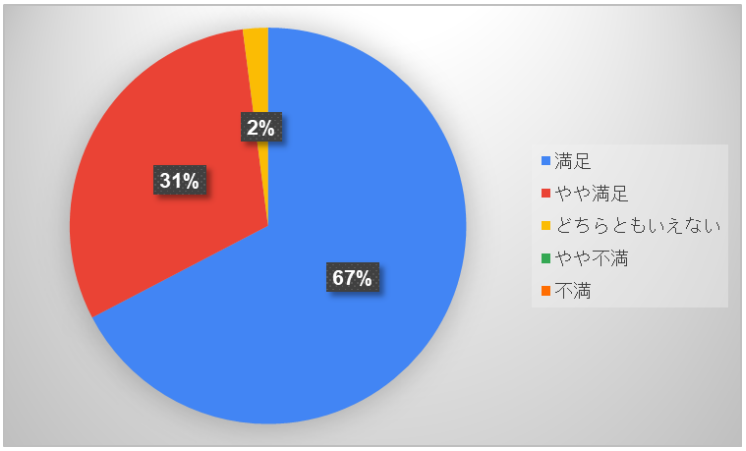
メインシンポジウム「 あらためて、これからの家庭養護を考える～改正児童福祉法施行とこども家庭庁発足を踏まえて～ 」：回答数 93 名

「満足」が59%（55名）、「やや満足」が37%（34名）、「どちらともいえない」が4%（4名）、「やや不満」が0%、「不満」が0%でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、96%（89名）でした。



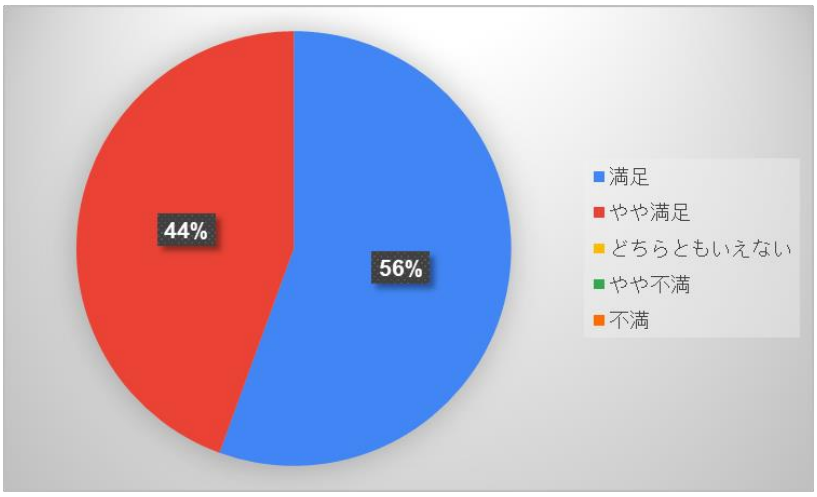
分科会１「 子どもアドボカシーを当事者の視点で考える」：回答数 49 名

「満足」が67%（33名）、「やや満足」が31%（15名）、「どちらともいえない」が2%（1名）、「やや不満」が0%、「不満」が0%でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、98%（48名）でした。



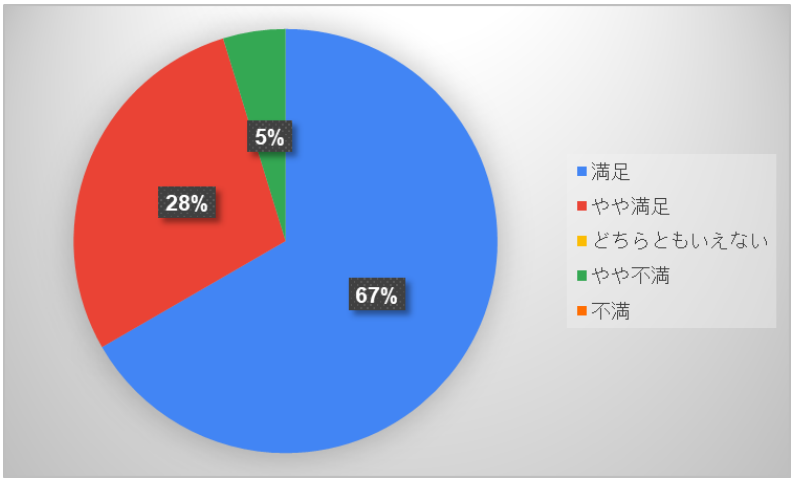
分科会２「これからどうなるフォスタリング？－里親支援センターの施行と今後の展望－」：回答数 18 名

「満足」が56%（10名）、「やや満足」が44%（8名）、「どちらともいえない」が0%（0名）、「やや不満」が0%、「不満」が0%でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、100%（18名）でした。



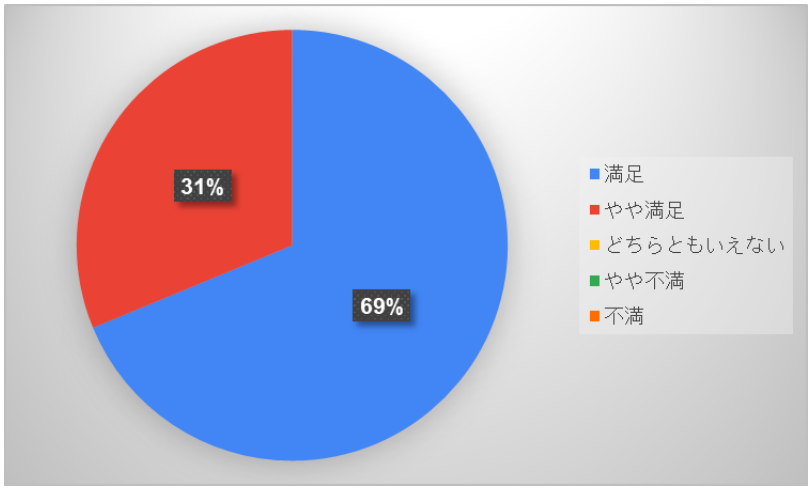
分科会３「 子ども支援、親支援、親子関係支援を包括する親子包括支援に向けて」：回答数 21 名

「満足」が67%（14名）、「やや満足」が28%（6名）、「どちらともいえない」が0%（0名）、「やや不満」が5%（1名）、「不満」が0%（0名）でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、95%（20名）でした。



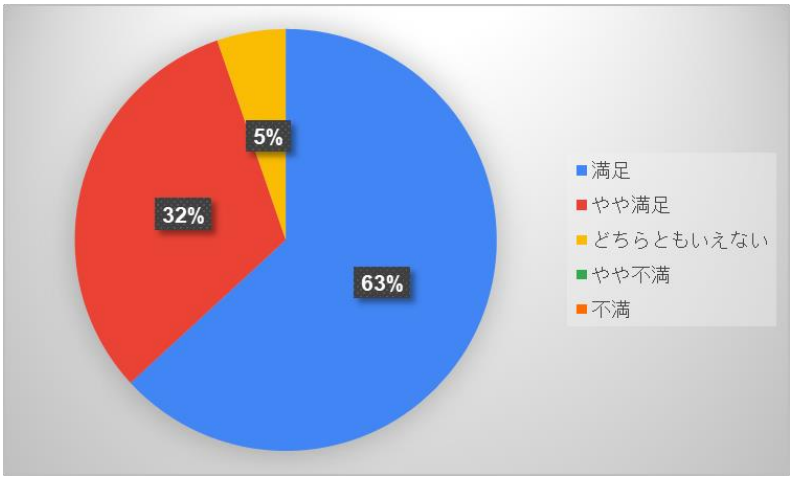
分科会４「 これからの里親制度について本音で語り合おう！」：回答数 16 名

「満足」が69%（11名）、「やや満足」が31%（5名）、「どちらともいえない」が0%（0名）、「やや不満」が0%、「不満」が0%でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、100%（16名）でした。



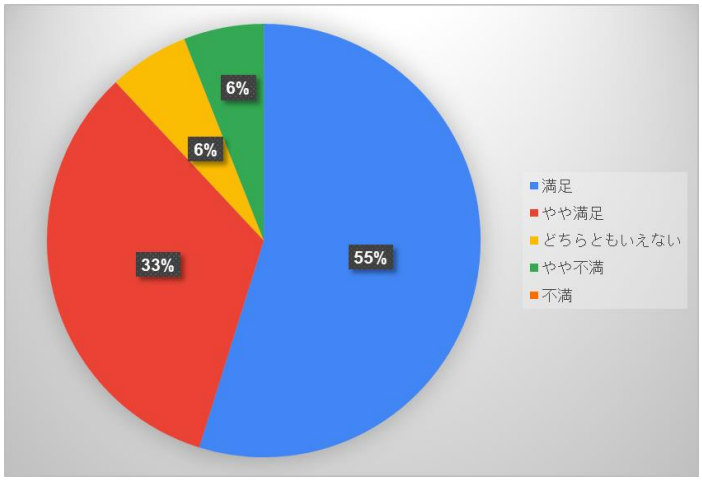
基礎セッション①「初めてのフォスタリング」：回答数 19 名

「満足」が63%（12名）、「やや満足」が32%（6名）、「どちらともいえない」が5%（1名）、「やや不満」が0%（0名）、「不満」が0%（0名）でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、95%（10名）でした。



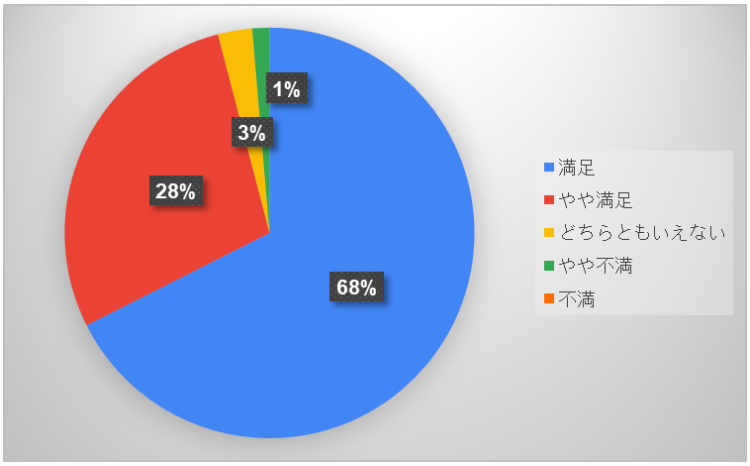
基礎セッション②「 知ってみよう！特別養子縁組」：回答数 18 名

「満足」が55%（10名）、「やや満足」が33%（6名）、「どちらともいえない」が6%（1名）、「やや不満」が6%（1名）、「不満」が0%（0名）でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、88%（16名）でした。



第２シンポジウム「 誰が担うの？どこへ向かうの？こども家庭センター～保健師の役割や民間支援機関との連携を中心に～」：回答数 74 名

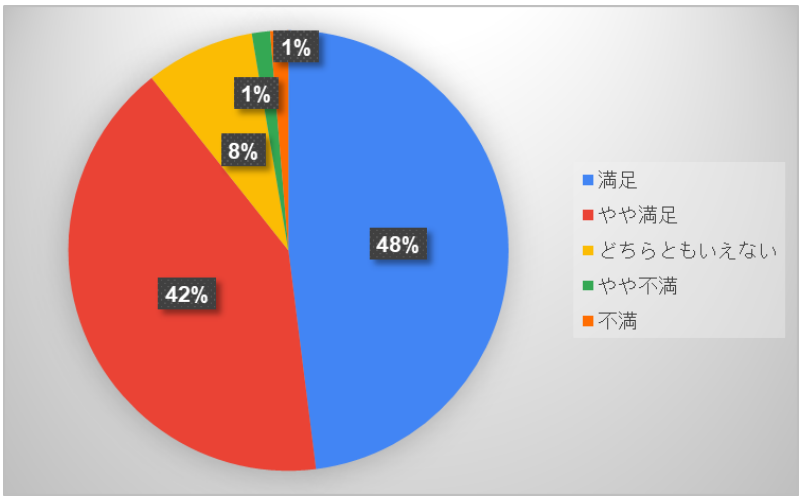
「満足」が68%（50名）、「やや満足」が28%（21名）、「どちらともいえない」が3%（2名）、「やや不満」が1%（1名）、「不満」が1%（1名）でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、96%（71名）でした。



アンケート

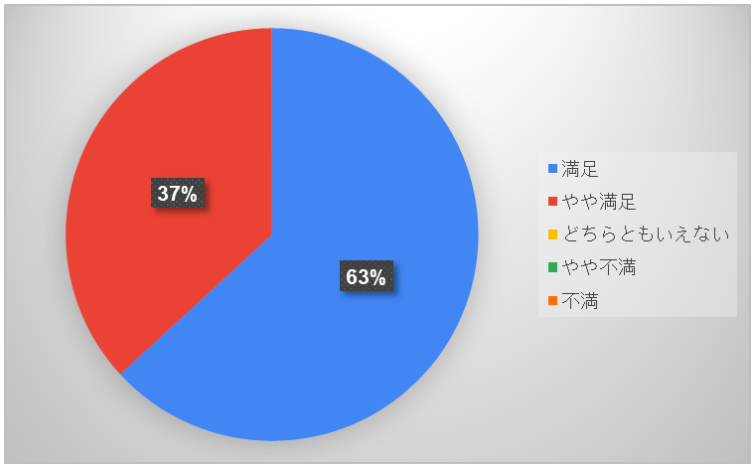
クロージングシンポジウム「社会的養護と障害児者施策の連携と協働への道　～互いの資源を活用し合うために何が必要か～」:回答数 75 名

「満足」が48%（36名）、「やや満足」が42%（31名）、「どちらともいえない」が8%（6名）、「やや不満」が1%（1名）、「不満」が1%（1名）でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、90%（67名）でした。



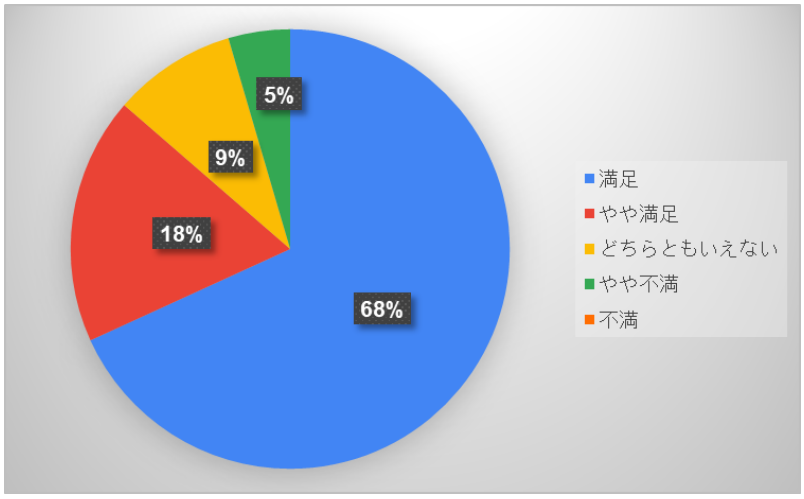
FLEC 映画祭：回答数:19 名

「満足」が63%（12名）、「やや満足」が37%（7名）、「どちらともいえない」が0%（0名）、「やや不満」が0%（0名）、「不満」が0%（0名）でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、100%（19名）でした。



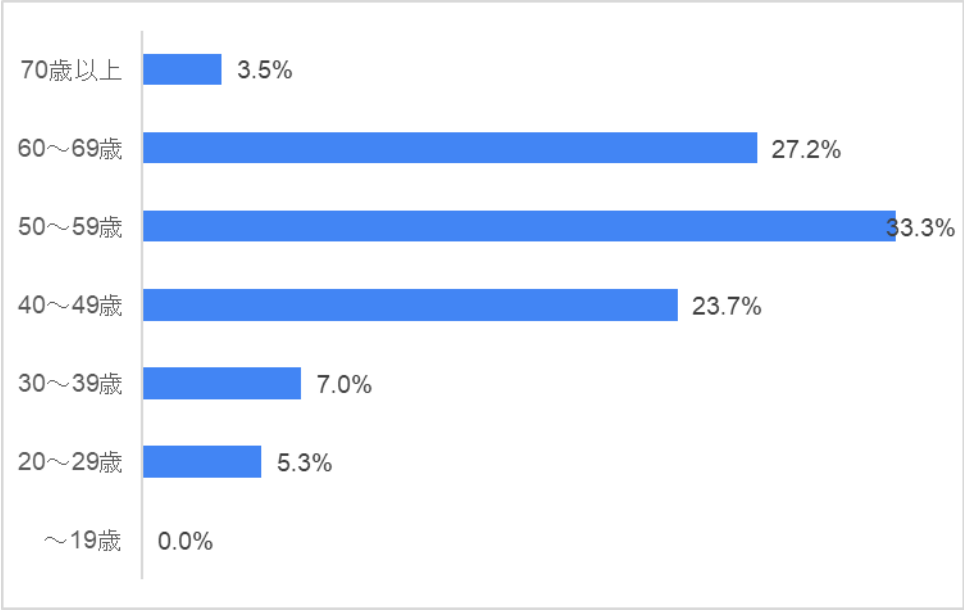
レセプション（リーガロイヤルホテル）:22 名

「満足」が68%（15名）、「やや満足」が18%（4名）、「どちらともいえない」が9%（2名）、「やや不満」が5%（1名）、「不満」が0%（0名）でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、86%（19名）でした。



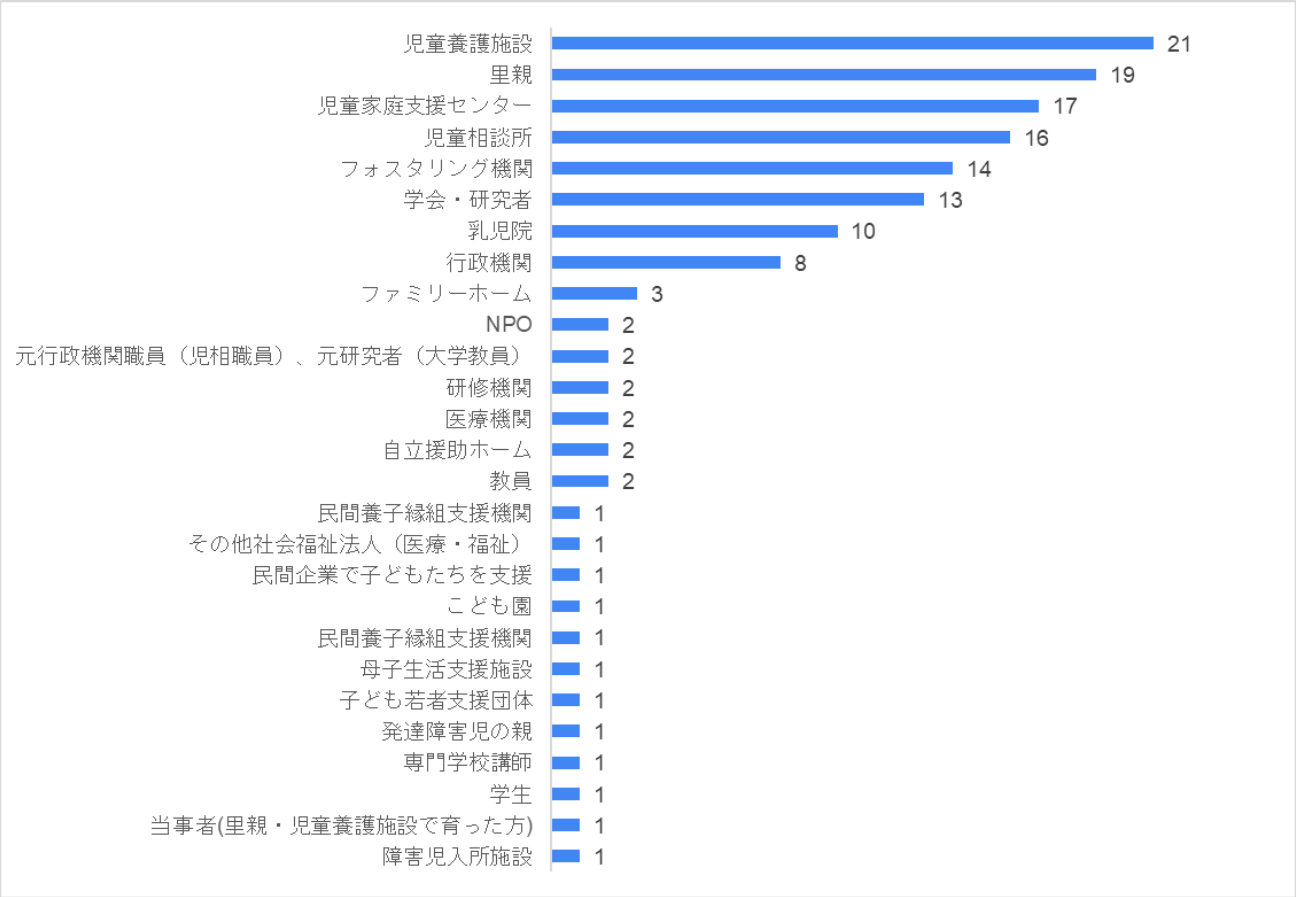
4．参加者の年齢区分：回答数 114 名

～19 歳以下は０%、20～29 歳は 5.3%、30～39 歳は 7%、40～49 歳は 23.7%、50～59 歳は 33.3%、60～69 歳は 27.2%、70 歳以上は 3.5%でした。

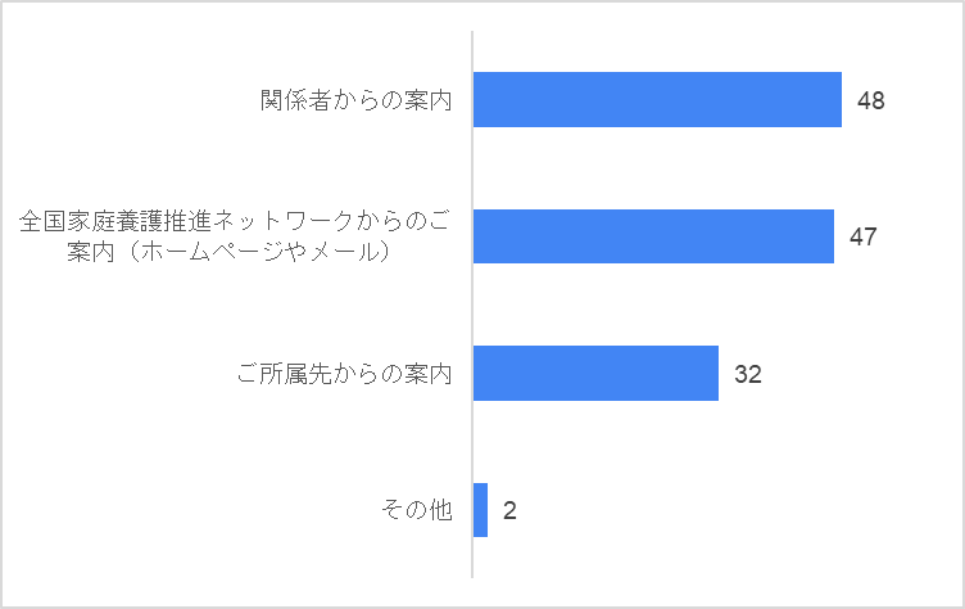


5．参加者の所属（子どもの社会的養護とのかかわり（所属先、関係性））　※複数回答可

子どもの社会的養護に関わる色々な関係者にご参加いただきました。多い順に、児童養護施設、里親、児童家庭支援センター、児童相談所、フォスタリング機関、学会・研究者、乳児院、行政機関、ファミリーホームの順でした。

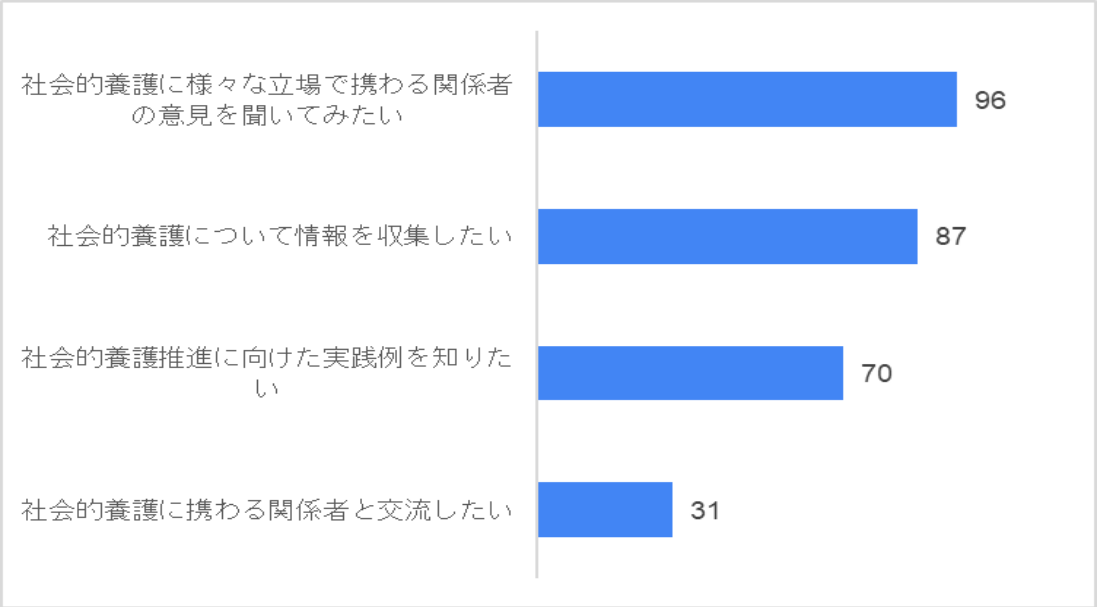


６．フォーラムを知った経緯



※その他は、虐待防止学会１、ネット検索１

７．参加目的



8．参加者の声（一部抜粋）

（1）　特に興味深かった内容

・プレセッション①　乳幼児緊急里親－実際の運用と課題－

※同様の意見多数あり

＜関連するご意見＞

- 緊急里親のニーズの高さを改めて感じるとともに、今回発表いただいた先進地域の取組みが非常に興味深く、今後も学ばせていただきたいと思いました。
- 大分県中央児相河野さんのご講話下さった児童相談所の取り組み内容について
- 乳幼児緊急里親の、取り組みをされている県の話しを聞く事ができ、とても参考になりました。
- 乳幼児緊急里親については実際にこのような支援が運用されていることも知りませんでした。どのように運用しているのか、それぞれの機関から伺うことで、支援の全貌がとても理解しやすかったです。
- 大分の児相が所をあげて里親の有効性を理解しているという素晴らしさ。
- chieds の乳幼児短期緊急里親の仕組みや事業に関する役割について
- 日本財団の支援を受けて、短期里親を取り組まれる大分の取り組み。

・プレセッション②　特別養子縁組と養育里親の育児休業－課題と展望－

※同様の意見複数あり

＜関連するご意見＞

- 養子縁組里親、養育里親どちらも避けて通れないので育児休暇を取ってじっくり向き合える環境を整えてほしい
- 里親の育児休業についてでは、子どもが支援主体ではありますが、里親を支えることがどれだけ重要か学ぶことができた。
- 育児休制度の緩和と課題（養育里親への対応を期待する）

・特別講演・鼎談　こども家庭庁の発足と社会的養育の展望

※同様の意見複数あり

＜関連するご意見＞

- こども家庭庁の長官のお話は分かりやすく、包括的で理解が進みました。また聡明さと

合わせて強いパッションにも感銘を受けました。

・メインシンポジウム　あらためて、これからの家庭養護を考える～改正児童福祉法施行とこども家庭庁発足を踏まえて～

※同様の意見多数あり

＜関連するご意見＞

- 桑名市の取り組み
- 「メインシンポジウムのあらためてこれからの家庭養護を考える」の中で、先駆的な役割を取っている福岡市の取り組みは、今後の里親委託率を上げることだけでなく、里親の機能を活かし、施設の機能を再編するなど、今後の日本型モデルを提示していると思われ大変興味分かかった。海外のモデルに手本を見出そうとすることは児童福祉だけでなく、精神科医療福祉などでも多くみられることであるが、社会的養護や精神保健など、海外の実践から遅れをとっている状況は共通したものがあり、海外モデルを定着しようとするだけでは、制度や文化がことなる環境・地域性からうまくいかないことが多かった。福岡市、あるいは大分県のモデルなど、本邦の先駆的モデルに学ぶことは大切であると考える。
- パーマネンシー保障について　※同様の意見は複数あり

・分科会１　子どもアドボカシーを当事者の視点で考える

※同様の意見多数あり

＜関連するご意見＞

- 分科会 1 の当事者を中心としてパネラーの報告。生の声から,大人の関わりについて考える（省察）することが多くあった。
- 当事者の声をお伺いし、私たちはもっと子どもたちの声に耳を傾けなければならないと改めて思いました。言葉だけでなく、その子から醸し出される声を聴きとる姿勢、感性が私たち支援者に求められていて、そこをしっかり磨いていかなければと思いました。ご自身の大事な思いを語ってくださって本当にありがとうございました。
- 分科会１での子供時代に要保護児童だった方々の話は大変興味深かった。

・分科会２　これからどうなるフォスタリング？－里親支援センターの施行と今後の展望－

※同様の意見複数あり

＜関連するご意見＞

- 社会的養育推進計画と里親支援センターの説明

・分科会３　子ども支援、親支援、親子関係支援を包括する親子包括支援に向けて

※同様の意見複数あり

- 市町村親子支援
- 母子支援の重要性

・分科会４　これからの里親制度について本音で語り合おう！

※同様の意見多数あり

＜関連するご意見＞

- 全体的にとても、良い内容でしたが、特に分科会 ４ の内容はとても深く、心が震えるような内容でした。
- 里親の支援や職業里親、ケア里親
- 里親の多様なあり方
- 里親への支援について、里子の生い立ちは個々違いは、あるが、養育は大変であることは、どの里親も抱えている悩み。指導よりも、即効性のある支援、第３者の支援が必要と思っています。
- 北海道の、里親になりたかったです
- ケア里親や、普通の養育里親が専門里親へ行くべき子を見ている現状。（まさにわたしです…）
- 里親体験会で、里親の良いエピソードだけでなく、里子の暴力などにも言及することで、覚悟のない軽い気持ちで登録する里親を減らすことは大変大切なことだと同感した。里親１年以内の委託解除を多発させている原因の１つだと痛感している。

・第２シンポジウム「 誰が担うの？どこへ向かうの？こども家庭センター～保健師の役割や民間支援機関との連携を中心に～」

※同様の意見多数あり

＜関連するご意見＞

- 子ども家庭センターの４月からの開設に向け、こども家庭庁の担当課長が心配されていることなど、生の声が聞けたこと。

- 紙風船の取り組み
- 市町村の役割(こども家庭センター)が重要になる中貴重なお話を聞くことが出来ました。
- 子ども家庭センターと施設や関係機関とのこれからの連携について
- どの講演・シンポジウムも今抱える課題に沿う内容であり、興味深かった。特に第 2 シンポジウムは保健師の役割の重要性、「予防がしっかりできていれば事が起きにくくなる」という着眼点に気づかされた。

・クロージングシンポジウム　教育施策と社会的養護の連携と協働－今、どうなってる？　どう進める？

※同様の意見多数あり

＜関連するご意見＞

- 教育との連携、支援の切れ目、戸田市の取り組み
- 官民連携と福祉教育の連携
- 教育と福祉の協働
- 社会的養護と教育、特に自立支援と高等教育への修学支援について
- クロージングシンポジウムの「教育施策と社会的養護の連携・協働」は不可欠な事項であり、非常に興味深く、またシンポジストの方の発表、ディスカッションも勉強になった

・FLEC 映画祭

※同様の意見多数あり

＜関連するご意見＞

- 映画を鑑賞させていただきましたが、言葉にならない心の奥に深く刺さるものがたくさんありました。今回感じ取ったものを大事に自分中に落とし込んでこれからの関わりに活かしたい。
- １６４０日の家族の映画は考えさせられた。※同様の意見は複数あり
- 映画祭は今後も実施してもらえると嬉しい。

・全体に関するご意見

- 共働きや配偶者が居なくても年齢に関係なく里親になることができる事を知れたこと
- 里親の関係で他県の状況が知れたので良い機会になった。

アンケート

- 昨年に比べ里親に関する内容が多く、具体的な支援方法、対策などを聞くことができ、非常に勉強になりました。
- 一時保護から里親委託されたり、施設に入所することなく里親委託になる割合の高さに驚いたが、その分虐待もあったりすること。
- 多角的に様々な領域から子どもの支援が検討、実践されていることがわかり、大変勉強になりました。
- 里親に関すること
- 多くの登壇者の方が、分離をする前に何ができるかという視点で、議論をされていたこと。また、子どもにとっての必要性から、サービスや事業をされていたこと。
- とも育て、つながり続ける、ということも、キーワードだと感じました。
- フォスターケア・ドリフト問題
- さまざまな取り組みをうかがうことができました。また文部科学省やこども家庭庁の職員の方々からのコメントも興味深かったです。
- 措置変更がこどもに与える影響を考えさせられました。
- どれも大変興味深かったです。
- 養育里親のレスパイトに対しての、行政の制度の使いづらさ。
- 特に興味深い内容と一つの選択を考えましたが、興味の中にどれも欠かすことができません。“下手な躾(虐待)の方法しか分からず、親も困ってたかもしれない”という言葉がとても印象に残っています。"
- 母子保健と児童福祉、教育施策と社会的養護、こうした広い視点が盛り込まれていたこと
- 各内容を通して、様々な地域で特性を生かした取り組みが展開されている事を知れたこと。
- 興味ある者すべては伺えなかったので、オンデマンド配信も期待しています。
- ハイリスクアプローチの領域を担っている NPO 法人を運営しています。ポピュレーションアプローチの必要性を強く感じているので、施設（私たちの場合は自立援助ホーム）の多機能化・高機能化でそこが担えるのではないかと関心を持って拝見しました。
- 自治体と民間支援機関との連携強化と協働の必要性

（2）　子どもの社会的養護について、特にご関心のあるテーマを教えてください。
※キーワードとして多くでてきたものを順に並べた

- 里親支援
- アドボカシー
- 乳幼児緊急里親
- 里親制度
- 子ども家庭センター
- 特別養子縁組
- 親子支援
- 社会的養護
- 自立支援
- フォスタリング機関の役割
- 家庭養育
- 在宅支援
- 里親ショートステイ
- トラウマケア

（３）今回初めての試みとして企画した基礎セッションに対する感想や今後基礎セッションとして取り上げてほしいテーマ。

＜感想＞

- 基礎的な部分について勉強できてとても良かった。
- 知っておきたいことを知ることができてよかった。
- 相互作用が生まれ、とても良かった。
- 基礎セッション１も２もとても良い内容で、学びがたくさんあった。
- 理解の薄い分野の実践が学べた。
- ベアホープの紹介がわかりやすく良かった。
- 基礎を理解するにはとても分かりやすかった。
- とても良かった。モチベーションが上がった。
- 基本を理解することは大切で、とても良い学びになった。
- 先進的な取り組みについて理解を深めることができた。
- 日々の業務に大変参考になった。
- 「特別養子縁組」のセッションが活動紹介中心で物足りなかった。
- 導入的企画として意義がある。

＜ご提案＞

- メインシンポジウムと同時間帯の開催が参加しづらい。
- プレセッション日に開催してもらえると良い。

＜その他のご意見＞

- 録画配信を楽しみにしている。
- WEB 参加で配信を楽しみにしている。

＜今後取り上げてほしいテーマ＞

- 里親支援センターに取り組んだところの経験談。
- フォスタリング機関の収支と費用対効果。
- 都道府県児童相談所と特別区、政令指定都市及び中核市の児童相談所の相違点。
- 行政や児童相談所と民間団体の連携。

- 国連の子どもの権利条約と日本国内の動向、先進諸国との比較。
- 特別養子縁組里親の国際的な要件の比較研究。
- 養育の向上について。高い養育を目指して今取り組むべきこと。
- 他のフォスタリング機関の立ち上げの話を聞きたい。

（４）今回初めての試みとして企画した映画祭に対する感想や今後取り上げてほしい映画。

＜感想＞

- 今後もぜひやってほしい。映画のみの参加も作ってほしい。
- 里親、特別養子縁組、児童福祉司それぞれ異なる視点から見た作品を選んでくださり、多角的な気づきを得ることができ興味深かった。
- とても良かった。また、トークセッションも良かった。
- 映画を通して様々なことを感じ、考えさせられた。
- とても素晴らしい試みだった。
- 映画の内容がとても良く、鑑賞して良かった。
- 映画を通して学ぶことができた。
- 日々多忙な中で、映画鑑賞の機会を提供してくれたのは良かった。
- 映画とトークセッションが有意義で興味深かった。
- 今まで鑑賞できる機会がなかったものを取り上げてくれて良かった。
- トークセッションを通して意見を共有できたのが良かった。
- 監督の話で児相職員が悪者に描かれることが多い点についての考えに共感できなかった。

＜ご提案＞

- オンラインで視聴できるようにしてほしい。有料でも良い。
- 会期前後も含めてオンデマンドで視聴可能にしてほしい。
- 初日のプレイベントの形で開催してほしい。
- Zoom 参加でも鑑賞できる工夫がほしい。
- 日曜は Zoom 参加のみで観劇できなかった。
- 映画とシンポジウムが重ならないようにしてほしい。
- ドキュメンタリーなども上映してほしい。
- 地方でも観られるようにしてほしい。

<今後取り上げてほしい映画>

- 「イン　セイフ　ハンズ」（フランスの社会的養護がわかる映画）
- 「毒親」
- 「さよならほやマン」
- NHK 福祉ビデオ「新しい絆の作り方」

（５）改善の提案

<オンライン参加に関する提案>

- 無料で Zoom での参加を希望
- 全ての分科会や映画祭をオンラインでも視聴可能にしてほしい
- オンライン参加の場合も登壇者への質問を事前に受け付けてほしい

<フォーラムの時間配分とスケジュールに関する提案>

- 都内在住ではない方のために、開始時間を遅くし、終了時間を早くしてほしい
- 大きなシンポジウムと映画祭の時間帯をずらしてほしい
- 分科会の時間をゆっくり取ってほしい
- 全体的に余裕をもって話を伺えるようにしてほしい

<会場や参加に関する提案>

- 遠方からの参加者のために宿泊先の手配をしてほしい
- フォーラム開催地域を年毎に変えてほしい
- 小グループでディスカッションする場が欲しい
- レセプションの返金可能な期間を設けてほしい
- 映画祭のオンライン配信や後日視聴を可能にしてほしい

<内容やテーマに関する提案>

- 日本の遅れを挽回するためにフランス、イギリス、フィンランド、スウェーデンなどの良さを取り入れる方法を検討してほしい
- 現場で実際に起こっている事柄に対する対応について取り上げてほしい

<その他の意見>

- 登壇者の著書販売を受付で行ってほしい
- 有意義なフォーラムだった
- 参加者に対して非常に配慮されていて充実感があった
- 橋本氏のコーディネートが素晴らしい
- 分科会の動画配信を楽しみにしている
- 当事者や実践者の意見が非常に参考になった
- 分科会が同時開催で参加できなかったので、後日配信がありがたい
- 行政間格差が大きい地域の考え方の違いについても取り上げてほしい

（６）その他のご意見

＜感想＞

- 非常に有意義で勉強になった。
- 子どもの社会的養護において必要なことを学べた
- 支援者の思いや取り組みが伝わった
- 多くの関係機関が参加し、先駆的な事例を学べた
- 長いプログラムだったが、構成がよくファシリテーションも素晴らしかった
- 運営が素晴らしかった
- 参加者に対する配慮が感じられた
- 登壇者の発表内容が素晴らしかった
- 主催者や登壇者の熱意に励まされた
- 対面での参加が有意義だった
- 最新の取り組みや情報が学べた
- 里親や児童相談所の役割について考えさせられた
- 多様な機関・所属の登壇者同士の意見交換が面白かった
- シンポジウムでのディスカッションが理解を深めた
- オンライン参加がとても良かった
- 録画配信を楽しみにしている
- オンデマンド配信で参加できなかった分科会等を視聴できるのが良い
- 多くの学びや気づきを得られた
- フォーラム開催に対する感謝
- 今後も参加したい

・　社会的養護に関わる皆様の努力に感謝

＜ご提案＞

・　内容が多すぎてどれも中途半端に感じた
・　プレゼンテーション前の経歴紹介は事前配布にしてほしい
・　シンポジウムの時間がタイトで、発言が端折られてしまうことが残念
・　会場が分かりにくかった。外に簡単な貼り紙が欲しかった
・　分科会が重なることが多く、参加しきれない
・　地域格差を埋めるために開催地域を変えてほしい
・　現場の実際の事例や対応について取り上げてほしい
・　事前に意見や質問を受け付ける仕組みが欲しい
・　小グループでのディスカッションの場を設けてほしい
・　行政職員が積極的に参加し、現場の声を反映してほしい

報告書
第６回 FLEC フォーラム～～家庭養護の推進と子ども子育て支援施策の包括化に向けて～

発行　一般社団法人　共生社会推進プラットフォーム
住所　〒007-0836 北海道札幌市東区北 36 条東 9 丁目 2-28
MAIL　info@isephp.org